

令和 5 年度

東北大学大学院教育学研究科博士課程

(前期課程・一般選抜)

入学試験問題 外国語科目(英語)

注 意

- 1 試験時間は 90 分。
- 2 問題紙は 4 枚(表紙を除く)、解答紙は 4 枚。
- 3 設問Ⅰ、設問Ⅱの解答はそれぞれ別の用紙に記入すること。
- 4 辞書の持ち込み不可とする。

【設問 I】SDG s（国連が定めた「持続可能な開発目標」）、および SDG 4（SDG s のひとつである教育についての目標）に関する次の英文を読み、下線部①～④を日本語に訳しなさい。

ここに下記文献の抜粋が入ります。

Westheimer, J. (2020). Can Education Transform Our World? Global Citizenship Education and the UN's 2030 Agenda for Sustainable Development. In Wulff, A. (Ed.), *Grading Goal Four: Tensions, Threats, and Opportunities in the Sustainable Development Goal on Quality Education*. (pp.280-296). Leiden: Brill Sense.

(p.280 の小見出し 1.Introduction に続く段落のはじめから、p .282 の 1 段落目終わり、and of course, justice and injustice.まで掲載)

また、次の部分に下線を付してあります。

下線部① p.280 の小見出し 1.Introduction に続く段落のはじめ Belief in the fundamental importance から、同段落 4 行目 policymakers alike まで。

下線部② p.281 の 11 行目 How a country schools から同段落 4 行下の next generation will help to create.まで。

下線部③ p.281 の下から 11 行目、If today's youth are to participate から、同段落の末尾、well-informed to do so effectively.まで。

下線部④ p.282 の 3 行目、Whether teachers explicitly から、同段落末尾、and of course, justice and injustice.まで。



(Westheimer, J. (2020). Can Education Transform Our World? Global Citizenship Education and the UN's 2030 Agenda for Sustainable Development. In Wulff, A. (Ed.), *Grading Goal Four: Tensions, Threats, and Opportunities in the Sustainable Development Goal on Quality Education*. (pp.280-296). Leiden: Brill Sense. より作成)

【設問Ⅱ】 次の英文を読み、下線部①～④を日本語に訳しなさい。ただし、人名については原文表記のままでよい。

ここに下記文献の抜粋が入ります。

Chambers, C. (2017) . *The Seven Deadly Sins of Psychology: A Manifesto for Reforming the Culture of Scientific Practice*, Princeton: Princeton University Press.

(p.2 の冒頭、History may look back に続く段落から、 p.3 の最下行、in the first place.まで掲載)

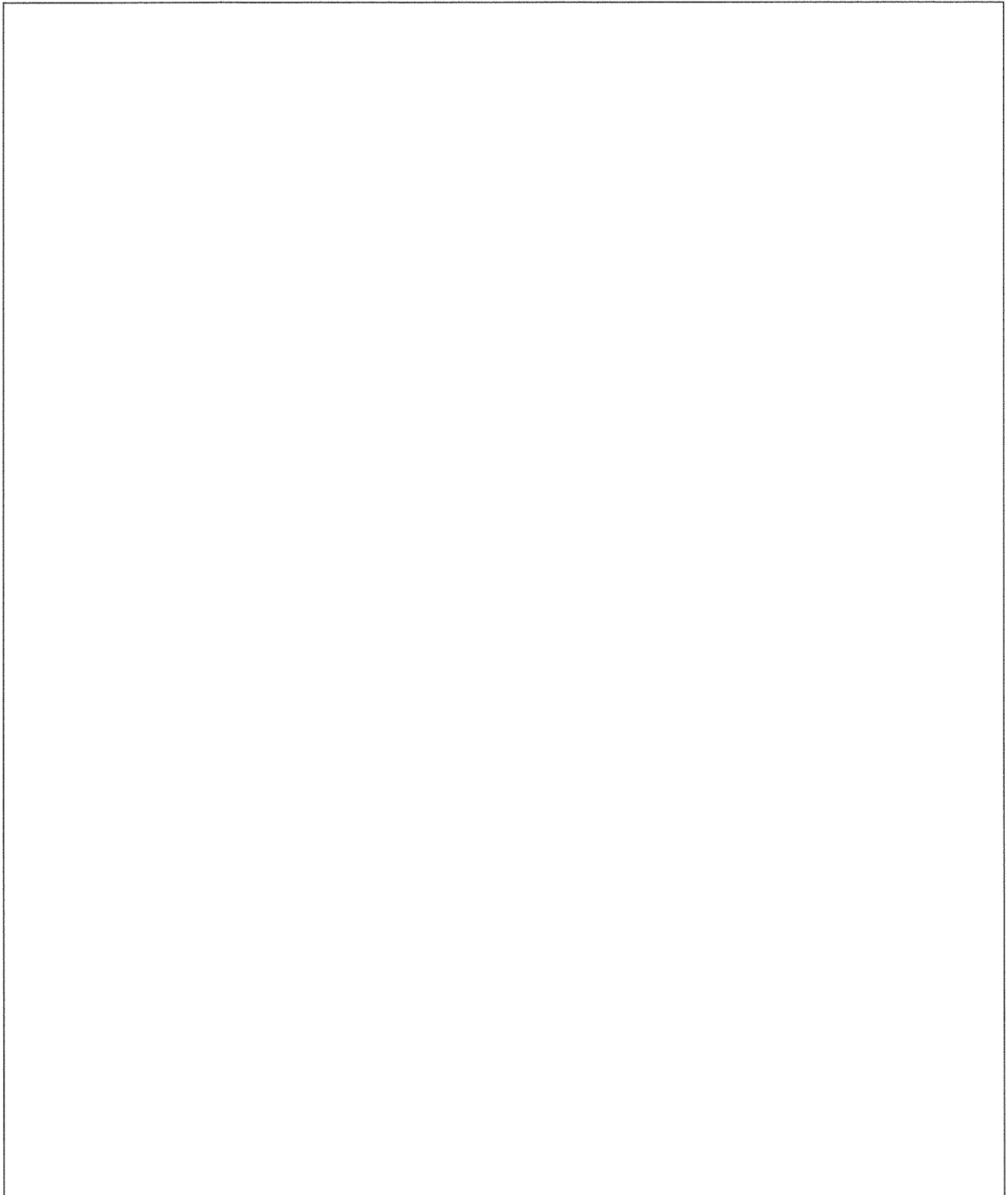
また、次の部分に下線を付してあります。

下線部① p.2 の 4 行目 The paper, written by Daryl Bem から同段落 4 行下の innovative approach to studying *psi*. まで。

下線部② p.2 の 15 行目 If a word that “primes”から同段落 3 行下の they respond faster. まで。

下線部③ p.3 の 8 行目 But if false,から、同段落 3 行下の in psychology be trusted? まで。

下線部④ p.3 の 23 行目 One replication attempt から、同段落 3 行下の whether successful or unsuccessful. まで。



注) psi : 超常現象、precognition : 予知、whatsoever : whatever の強調型

(Chambers, C. (2017) . *The Seven Deadly Sins of Psychology: A Manifesto for Reforming the Culture of Scientific Practice*(pp.2-3), Princeton: Princeton University Press. より作成)

令和 5 年度（第 1 期試験）

東北大学大学院教育学研究科博士課程

（前期課程・一般選抜）

生涯教育科学コース

入学試験問題（専門科目）

注 意

- 1 試験時間は 1 2 0 分。
- 2 問題紙は.....1.....枚（表紙を除く）、解答紙は.....2.....枚。
- 3 設問Ⅰ（共通問題）は全員解答すること。また、設問Ⅱ（選択問題）については、問いを選択のうえ解答すること。
- 4 解答は、問題番号を明記のうえ別の解答紙に記入すること。

設問 I 学校制度外での学びが人間形成に果たす役割について、学校制度内での学びとの関係から論述しなさい。

設問 II 次の2問からどちらか一つを選択し、その問いに答えなさい。

問い1 現代社会における儀礼の変容に関して具体的な事例をあげながら記述し、それが現代人の人間形成に及ぼしうる影響について論じなさい。

問い2 日本教育史に関する次の項目①～④から二つ選び、それぞれについて説明しなさい。

- ①御真影
- ②帝国大学
- ③墨ぬり教科書
- ④教育基本法

令和 5 年度（第 1 期試験）

東北大学大学院教育学研究科博士課程

（前期課程・一般選抜）

教育政策科学コース

入学試験問題（専門科目）

注 意

- 1 試験時間は 1 2 0 分。
- 2 問題紙は 4 枚（表紙を除く）、解答紙は 3 枚。
- 3 設問Ⅰ（共通問題）は全員解答すること。また、設問Ⅱ（選択問題）については、問題紙中に志望する専門領域ごとの問題選択の方法が記してあるので、それに応じて問題を選択の上、解答すること。
- 4 解答は、問題番号を明記の上、それぞれ別の用紙に記入すること。

設問Ⅰ：共通問題（全員解答すること）

下の表は、2018年に世界の48か国・地域で実施された第3回の『OECD 国際教員指導環境調査（Teaching and Learning International Survey：TALIS）』の結果の一部である（表中の「S.E.」はStandard Error である）。

表1 学級の規律と学習の雰囲気（小学校）

小学校教員の回答に基づく

国名	対象学級について、以下の項目が「当てはまる」又は「非常に良く当てはまる」と答えた教員の割合 ^{1,2}							
	授業を始める際、児童が静かになるまでかなり長い時間待たなければならない		この学級の児童は良好な学習の雰囲気を作り出そうとしている		児童が授業を妨害するため、多くの時間が失われてしまう		教室内はとても騒々しい	
	%	S.E.	%	S.E.	%	S.E.	%	S.E.
フランドル（ベルギー）	31.9	(1.0)	76.5	(1.0)	40.6	(1.1)	34.6	(1.1)
プエノスアイレス（アルゼンチン）	52.0	(1.3)	67.2	(1.5)	48.5	(1.4)	48.8	(1.6)
デンマーク	25.9	(1.0)	80.4	(1.0)	42.7	(1.1)	32.4	(1.1)
イングランド（イギリス）	16.9	(1.1)	79.0	(1.0)	25.0	(1.2)	20.1	(1.1)
フランス	30.9	(1.3)	75.9	(1.5)	43.7	(1.6)	40.8	(2.2)
日本	16.4	(0.7)	86.8	(0.8)	10.9	(0.6)	16.5	(0.8)
韓国	36.2	(0.9)	82.4	(0.8)	42.1	(0.9)	30.8	(1.0)
スペイン	38.2	(0.9)	75.6	(1.0)	42.7	(1.1)	38.3	(1.1)
スウェーデン	30.1	(1.6)	64.7	(1.5)	35.5	(1.5)	36.2	(1.5)
台湾	11.6	(0.6)	86.7	(0.7)	22.4	(0.8)	21.2	(0.8)
トルコ	23.2	(1.4)	71.8	(1.4)	29.8	(1.4)	28.1	(1.5)
アラブ首長国連邦	19.8	(0.6)	83.9	(0.4)	22.1	(0.5)	17.5	(0.5)
ベトナム	7.2	(0.6)	96.2	(0.4)	11.2	(0.8)	4.9	(0.5)
オーストラリア	21.5	(1.0)	80.1	(0.8)	32.9	(1.1)	23.2	(1.0)
オランダ	40.8	(1.6)	82.8	(1.2)	35.1	(1.6)	24.0	(1.3)

1. これらのデータは、教員の回答に基づいており、毎週の時間割から無作為に選択された、現在指導している学級に関するものである。

2. 調査サンプルは、対象学級における自らの指導は、完全に又は主に特別な支援を要する児童に対して行うものではないと回答している教員に限定している。

表2 教員になる際に重要と感じた動機（小学校）

小学校教員の回答に基づく

国名	教員になる際に「非常に重要」又は「ある程度重要」と回答した項目											
	経済的なキャリアアップの機会が得られること		確実な収入が得られること		安定した職業であること		私生活での責任を果たすことを妨げない勤務スケジュールであること（例：勤務時間、休日、非常勤）		教職に就けば、子供や若者の成長に影響を与えられるということ		教職に就けば、社会的弱者の手助けができるということ	
	%	S.E.	%	S.E.	%	S.E.	%	S.E.	%	S.E.	%	S.E.
フランドル（ベルギー）	69.3	(0.9)	73.0	(0.9)	61.5	(1.1)	59.0	(1.1)	98.7	(0.2)	85.2	(0.7)
プエノスアイレス（アルゼンチン）	41.0	(1.2)	33.6	(1.1)	31.1	(1.1)	33.4	(1.2)	90.6	(0.7)	81.8	(1.0)
デンマーク	34.6	(1.0)	45.4	(1.4)	45.4	(1.3)	60.9	(1.3)	95.2	(0.6)	67.4	(1.2)
イングランド（イギリス）	80.5	(1.2)	83.8	(1.2)	86.8	(1.1)	59.8	(1.5)	98.6	(0.3)	87.5	(0.9)
フランス	67.1	(1.8)	64.0	(1.9)	59.4	(1.9)	49.8	(2.1)	97.5	(0.5)	78.1	(1.8)
日本	52.1	(1.0)	89.0	(0.6)	91.1	(0.5)	67.7	(1.0)	88.4	(0.6)	69.0	(0.9)
韓国	79.4	(0.9)	85.8	(0.8)	91.9	(0.6)	88.1	(0.7)	88.8	(0.7)	72.6	(0.9)
スペイン	53.4	(1.1)	47.4	(1.1)	44.0	(1.1)	47.3	(1.2)	92.8	(0.4)	87.4	(0.6)
スウェーデン	51.2	(1.2)	66.9	(1.2)	71.4	(1.1)	59.6	(1.2)	96.6	(0.5)	86.3	(0.9)
台湾	96.3	(0.4)	96.6	(0.3)	94.8	(0.4)	93.6	(0.5)	95.0	(0.4)	89.8	(0.5)
トルコ	65.6	(1.3)	83.7	(1.1)	85.8	(1.1)	84.8	(1.3)	98.0	(0.4)	92.5	(0.8)
アラブ首長国連邦	91.5	(0.4)	85.8	(0.4)	89.5	(0.4)	85.4	(0.4)	97.9	(0.2)	91.6	(0.4)
ベトナム	98.2	(0.2)	88.7	(0.6)	91.4	(0.4)	97.9	(0.2)	98.8	(0.2)	97.0	(0.3)
オーストラリア	79.2	(0.8)	79.3	(0.7)	81.5	(0.7)	57.5	(0.9)	97.9	(0.3)	84.3	(0.7)
オランダ	32.3	(1.3)	32.8	(1.4)	29.4	(1.4)	27.6	(1.5)	92.5	(0.7)	46.0	(1.3)

（出典：https://www.nier.go.jp/kokusai/talis/pdf/talis2018_summary.pdf より作成。）

前頁の表 1 と表 2 を見て、次の問いに答えなさい（問 1・問 2 への解答を解答紙 1 枚に収めること）。

問 1 表 1 から見て、日本の小学校の「学級の規律と学習の雰囲気」の特徴を国際比較の視点から指摘し、なぜ、日本でそのような特徴が見られるのか理由を考察しなさい（特徴の指摘に際しては、%の値だけでなく S.E.の値も検討すること）。

問 2 表 2 から見て、日本の小学校の先生が「教員になる際に重要と感じた動機」には他の国と比べてどんな特徴があるか指摘し、なぜ、日本でそのような特徴が見られるのか理由を考察しなさい（特徴の指摘に際しては、%の値だけでなく S.E.の値も検討すること）。

設問Ⅱ：選択問題（志望する専門領域の問題を選択して解答すること。）

【教育行政学領域】

次の各問いに答えなさい。（問1・問2で解答紙を各1枚使用すること。）

問1 以下の表3は「令和2年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について」130頁にある、スクールソーシャルワーカーの活動日数の状況を示したものである。

- ① スクールソーシャルワーカーの勤務実態について、表から読み取れることを述べなさい。
- ② スクールソーシャルワーカー等の活用を含む、近年の学校運営改革の内容について説明しなさい。
- ③ ①②を踏まえて、今後求められる学校運営と教育資源の配分のあり方について、あなたの考えを述べなさい。

表3 スクールソーシャルワーカーの活動日数の状況（公立）

	中学校区	中学校区	小学校	小学校	中学校	中学校	高等学校	高等学校	計	計
	中学校区数 (校区)	構成比 (%)	学校数 (校)	構成比 (%)	学校数 (校)	構成比 (%)	学校数 (校)	構成比 (%)	学校数 (校)	構成比 (%)
①常駐	94	1.0	85	0.4	73	0.8	10	0.2	168	0.5
②年間168日以上(常駐を除く)	585	6.3	464	2.4	269	2.9	3	0.1	736	2.3
③年間167日～84日	1,052	11.3	688	3.6	566	6.0	43	1.1	1,297	4.0
④年間83日～42日	1,468	15.7	1,655	8.7	1,168	12.5	182	4.5	3,005	9.2
⑤年間41日～20日	1,673	17.9	2,825	14.8	1,601	17.1	278	6.8	4,704	14.4
⑥年間19日～10日	905	9.7	2,679	14.0	1,240	13.2	207	5.1	4,126	12.7
⑦年間9日～1日	1,743	18.6	5,129	26.8	2,103	22.5	832	20.4	8,064	24.8
⑧年間0日(配置実績なし)	1,827	19.5	5,578	29.2	2,346	25.0	2,532	62.0	10,456	32.1
計	9,347	100.0	19,103	100.0	9,366	100.0	4,087	100.0	32,556	100.0

(注1)スクールソーシャルワーカーの雇用形態や配置計画に拘らず、活動日数の実績で計上したもの。

(注2)常駐とは、スクールソーシャルワーカーが単独の若くは複数の若かりに拠らず、基本的に毎日、一人以上のスクールカウンセラーが当該学校の相談業務等に従事しているもの。

(注3)中学校区とは、中学校別の通学区域であり、1つの中学校とその通学区域内にある複数の小学校を総称するものである。

(注4)高等学校の全定併置校や通信制併設校等においては、全日制、定時制、通信制それぞれ1校として別々に計上。

(注5)構成比は、各区分における学校数に対する割合。

(出典：https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1302902.htm, 最終確認日2022年8月26日。)

問2 教育行政学に関する次の語句のなかから3つを選択し、それぞれ200字程度で説明しなさい。

- ① 新公共管理 (New Public Management)
- ② 潜在能力アプローチ
- ③ 年齢主義と課程主義
- ④ 自治体行政の総合化
- ⑤ 政策の窓モデル

【比較教育学領域】

次の各問いに答えなさい。(問1・問2で解答紙を各1枚使用すること。)

問1 いくつかの国々では初等教育粗就学率が100%を超えている一方で、初等教育純就学率はいずれの国も100%以下である。粗就学率と純就学率の間になぜこのような違いが生じるのか、説明しなさい。

問2 下の図は、ブレイとトマスによって比較教育学の分析フレームワークを示すものとして提示されたキューブモデルである。あなたがこれから取り組もうと考えている研究計画を、このモデルに基づいて説明しなさい。

ここに、マーク・ブレイ、ボブ・アダムソン、マーク・メイソン
編著（杉村美紀、大和田洋子、前田美子訳）（2011）『比較教育
研究—何をどう比較するか』上智大学出版、9頁の図、「比較教育
学の分析フレームワーク」が入ります。

令和 5 年度（第 1 期試験）

東北大学大学院教育学研究科博士課程

（前期課程・一般選抜）

グローバル共生教育論コース

入学試験問題（専門科目）

注 意

- 1 試験時間は 120 分。
- 2 問題紙は 1 枚（表紙を除く）、解答紙は 2 枚。
- 3 設問Ⅰ（共通問題）は全員解答すること。また、設問Ⅱ（選択問題）については、志望する専門領域の問題を選択し解答すること。
- 4 解答は、設問番号（設問Ⅱについては選択した専門領域）を明記の上、それぞれ別の用紙に記入すること。

設問Ⅰ：共通問題（全員解答すること）

近年のユネスコでは、教育における非国家主体の役割が注目されている。非国家主体の1つがNPOである。教育におけるNPOの役割とは何か。具体例を2つ以上挙げながら説明しなさい

設問Ⅱ：選択問題（志望する専門領域の問題を選択して解答すること）

【国際教育開発論領域】

問：2022年6月に国際的な研究組織「持続可能な開発ソリューション・ネットワーク」（SDSN）が発表した「Sustainable Development Report 2022」によると、日本のSDGs達成度は2021年の18位から1ランク（163カ国中）下がった。また、SDGsの17の目標のうち「深刻な課題がある」とされる目標は以下の6つであった。

- ・目標5「ジェンダー平等を実現しよう」
- ・目標12「つくる責任つかう責任」
- ・目標13「気候変動に具体的な対策を」
- ・目標14「海の豊かさを守ろう」
- ・目標15「陸の豊かさを守ろう」
- ・目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」

教育を通して日本社会の持続可能な開発に関する「深刻な課題」を解決する方法について、上記の「深刻な課題がある」目標から3つを選んで、具体的に論じなさい。

【多文化教育論領域】

問：外国人児童生徒に対する日本語指導の現状と課題について論じなさい。

令和 5 年度（第 1 期試験）

東北大学大学院教育学研究科博士課程

（前期 2 年の課程・一般選抜）

教育情報アセスメントコース

入学試験問題（専門科目）

注 意

- 1 試験時間は 120 分。
- 2 問題紙は 4 枚（表紙を除く）、解答紙は 3 枚。
- 3 設問Ⅰと設問Ⅱの両方に解答すること。
- 4 解答は、設問Ⅰについては 1 枚目の解答紙に、設問Ⅱについては 2～3 枚目の解答紙に、問の番号を明記した上で記入すること。
- 5 試験終了後、問題紙は持ち帰ること。

設問 I

アクセシブルデザイン（共用品・共用サービス）とは、製品や環境、サービスなどが、高齢者、障害者を含む多くの人に利用しやすいようにデザインするという考えであり、

「

ここに、JIS Z 8071:2017『規格におけるアクセシビリティ配慮のための指針』の2.19の「多様な…」から「…当てた設計」までが抜粋されています。

」*1

「

ここに、星川安之『アクセシブルデザインの発想—不便さから生まれる「便利製品」』岩波書店, 2015のp.2, 1行目「福祉用具…」からp.2, 3行目「…とサービス」までが抜粋されています。

」*2

と定義されている。電動歯ブラシ、ライター（片手で着火できる器具）、点字付きトランプなどがその一例とされる。

このアクセシブルデザインについて、個人と社会における意義に関するあなたの考えを述べなさい。

*1（出典：JIS Z 8071:2017『規格におけるアクセシビリティ配慮のための指針』）

*2（出典：星川安之『アクセシブルデザインの発想—不便さから生まれる「便利製品」』岩波書店, 2015）

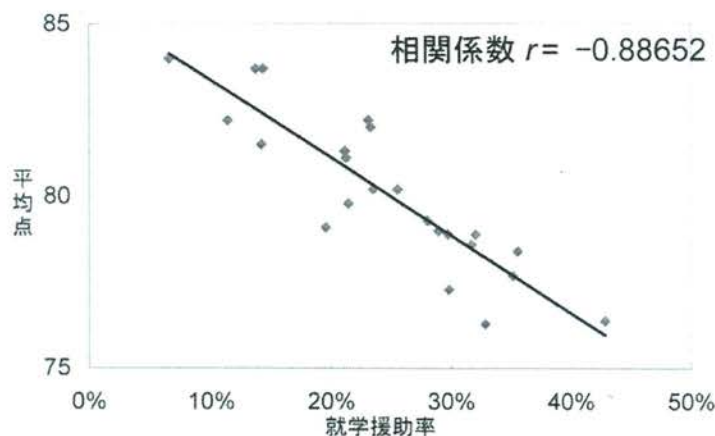
設問Ⅱ

以下の各問に答えなさい。

問 1 「平均 μ 、分散 σ^2 の母集団から無作為抽出されたサンプルサイズ N の標本の標本平均を $\bar{X}$ とすると、 N が大きくなるにつれて $\bar{X}$ の分布は平均 μ 、分散 $\frac{\sigma^2}{N}$ の正規分布に近づく」という性質がある。いま、母集団分布の平均が $\mu=50$ 、分散 $\sigma^2=100$ であるとき、この母集団から抽出されたサンプルサイズ $N=10000$ の標本平均の分散を計算しなさい。

問 2 下図は東京都 23 区における小学 5 年生の就学援助率と学力平均点の散布図と相関を示した資料である。この資料をみると、相関係数の値が $r=-0.89$ であり、散布図からは就学援助率が高い区ほど学力平均点が高い傾向があることを読み取ることができる。これらのことから、「経済力が低い家庭の子は学力が低い」と結論づけることは適切であると言えるか。その適否を、理由を挙げて述べなさい。また、理由を述べる際には、上の問 1 における標本平均の分散に関する統計的性質を利用しなさい。なお、縦軸の学力スコアはいわゆる百点満点であり、その範囲は 0 から 100 となり、下図では、そのうちの 75 から 85 の範囲が表示されていることに注意しなさい。

(注) 就学援助率：経済的な理由により児童・生徒の小・中学校（義務教育）への就学が困難な家庭に対し、自治体が学校給食費や学用品費等の費用の一部を援助する割合のこと



(出典：<http://blog.livedoor.jp/shojitujino/archives/50227949.html>)

問3 次ページに掲げる資料は令和4年度全国学力学習状況調査の結果の一部である。この資料を使って、「家庭の経済状況による不利を学校教育で覆せる可能性」について、それを支持する方向、すなわち「可能性がある」ことを補強する方向で論じなさい。なお、各グラフ中右側の数値は平均正答率をあらわしています。

(資料は次ページに掲載している)

(出典：<https://www.nier.go.jp/22chousakekkahoukou/22summary.pdf>)

問4 上の問3で論じた内容について、限界や不足点を3つ列挙し、それぞれについて、その限界を乗り越え、不足点を補うためにどのような調査やデータがさらに必要かを端的に述べなさい。

設問Ⅱ－3) 資料

三重クロス分析（「家には、およそどれくらいの本があるか」×「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたか」×各教科の平均正答率）

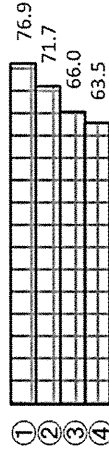
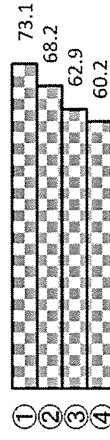
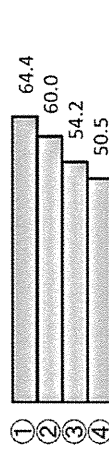
※「家にある本の冊数」は、国際学力調査において、家庭の社会経済的背景（SES (Socio-Economic Status)）の代替指標の一つとして用いられている。

◆「家にある本の冊数」が少ない（家庭の社会経済的背景（SES）が低い）ほど各教科の平均正答率が低い傾向がみられるが、「家にある本の冊数」が少ない層においても、授業で、自分の考えを発表する機会に、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表しているほど、各教科の平均正答率が高い傾向がみられる。

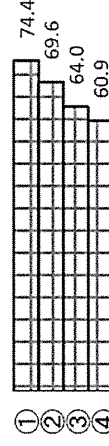
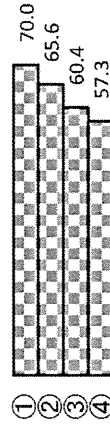
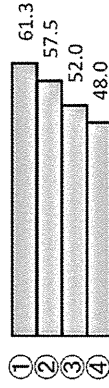
0～25冊 26～100冊 101冊以上

①発表していた ②どちらかといえば、発表していた ③どちらかといえば、発表していなかった ④発表していなかった

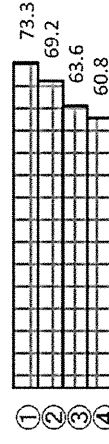
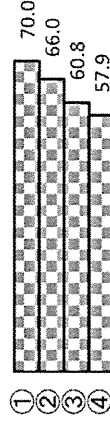
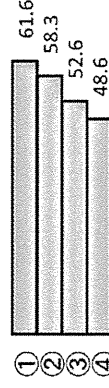
小学校国語



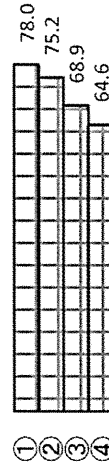
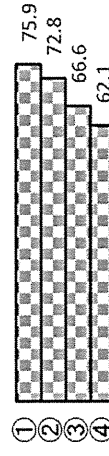
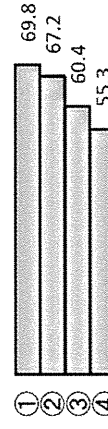
小学校算数



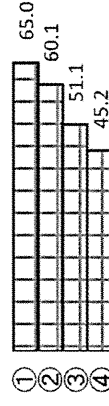
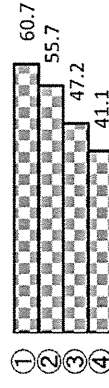
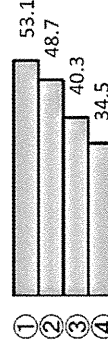
小学校理科



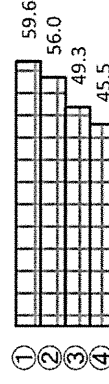
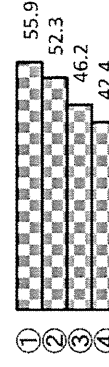
中学校国語



中学校数学



中学校理科



令和 5 年度（第 1 期試験）

東北大学大学院教育学研究科博士課程

（前期課程・一般選抜）

教育心理学コース

入学試験問題（専門科目）

注 意

- 1 試験時間は 120 分。
- 2 問題紙は 1 枚（表紙を除く）、解答紙は 4 枚。
- 3 設問Ⅰ（共通問題）は全員解答すること。また、設問Ⅱ（選択問題）については、問題紙中に志望する専門分野ごとの問題選択の方法が記してあるので、それに応じて問題を選択の上、解答すること。
- 4 解答は、問題番号を明記の上、それぞれ別の用紙に記入すること。

設問Ⅰ（共通問題）

近年、「心理学における再現性の危機」が話題とされることが多くなった。再現性の危機とは、既に発表された研究結果を他の研究者が追試して再現することに失敗するという問題である。このような問題が生じる理由や背景は何か。「心理学」の特質をふまえた上で、あなたの考えを述べなさい。

設問Ⅱ（教授学習分野）

1. 「学習の転移」について説明し、その成立が学校教育の根幹であると言われる理由を論じなさい。
2. 情報処理過程における「ボトムアップ処理」と「トップダウン処理」について、具体例を挙げながら説明しなさい。
3. 「メタ認知」とはどのようなことか。メタ認知的知識とメタ認知的活動の両面から、具体的な学習場面を例に挙げて説明しなさい。

令和5年度 (第1期試験)

東北大学大学院教育学研究科博士課程

(前期課程・一般選抜および社会人特別選抜および
外国人留学生特別選抜)

臨床心理学コース

入学試験問題 (専門科目)

注 意

1. 試験時間は120分。
2. 問題紙は1枚(表紙を除く)、解答紙は5枚。
3. 解答は所定の用紙に記すこと(設問Ⅰ～設問Ⅲの解答は各1枚の解答紙を用いて、設問Ⅳの解答は2枚の解答紙を用いて、(1)～(4)を1枚目、(5)～(8)を2枚目に記入すること)。

…………臨床心理学コース…………

【設問Ⅰ】 児童虐待と対策の現状と問題点について述べなさい。(20 点)

【設問Ⅱ】 心理療法とカウンセリングの異同について述べなさい。(20 点)

【設問Ⅲ】 インターネット上で閲覧できるメンタルヘルスに関する情報の中には適切ではないものも多く存在する。インターネット上のメンタルヘルスに関する情報の適切性を判断するうえで、どのような判断基準が有用だと考えられるか。あなたの考えを述べなさい。(20 点)

【設問Ⅳ】 以下の用語をそれぞれ5行程度で説明しなさい。(各 5 点)

(1) HEE (High Expressed Emotion)

(2) 精神保健福祉法

(3) 形式的操作期

(4) セルフスティグマ

(5) 家族システム理論

(6) アサーション・トレーニング

(7) 三項随伴性

(8) メタ分析

(以下余白)